

第二回懇談会までのまとめ

- 第二回懇談会で確認した医療介護等の方向性
- 4つの重点医療を含めた現状機能は引き続き担うべき
 - 増床すべき
 - 高齢化にしっかり対応できる病院を
 - 地域で最期まで暮らせるように

病院計画案B'案の概要 面積増(多)・病床増案

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1床あたり面積 = 約75m² ・ ベッド数 = 450床程度 ・ ベッド構成 = 急性期 + 地域包括ケア + 回復期リハビリテーション ・ 診療機能について重点診療は確保し、その他診療については別途今後の協議とする。
面積	約33,750m ²
メリット・デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区内病床数の増加につながる。 ・ 先行使用する面積が比較的多い。 ・ 駐車場を地階に設け、周辺環境に配慮して敷地北側に緑地を設ける。 ・ 地階が増えてコスト増の要因となる。



第二回懇談会の主な意見

- ・ コストの問題はあるが、技術的に可能ならば、住環境の維持の観点で駐車場を地下に設けるB'案が望ましい。
- ・ 高齢化を見据え、光が丘における商業施設のあり方を検討している。今後このコンセプトに反映できるとよい。
- ・ スポーツやコミュニティでは、光が丘公園でグラウンドゴルフを毎週実施している。
- ・ 薬局について、健康相談等の機能をこのイメージに組み入りたい。
- ・ 認知症の医療が、生活の場である地域までつながっていくことが必要。
- ・ がんなど、患者だけでなく、その家族に対する支援も必要。
- ・ 高齢者にやや視点が偏っている感がある。地域活性化の観点で、若い世代への配慮がほしい。
- ・ 病院専用のトンネルについて引き続き調査をお願いしたい。
- ・ 官民の力を合わせ、光が丘が先駆的なモデルとなるよう、採算性を考慮しつつ、ぜひ良い方向で進めたい。

光が丘地区における地域包括ケアシステム

- ・ 急性期から看取りまで施設・機能が備わっており、安心して暮らし続けられるまち
- ・ 住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供され、QOL(生活の質)を享受できるまち
- ・ 自治体だけでなく、地域住民や事業者が協働して取り組む仕組みを持つまち